

(2014.12) ガンを防ぐピロリ菌治療

細長いウィンナ・ソーセージに似た形をした細菌が胃の中で、悪さをし、胃炎を起こしています。この菌が一般には「ピロリ菌」と呼ばれています。この菌は胃炎だけではなく、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、さらに胃がんを起こすことも、また、胃の特殊リンパや血液の病気との関連も発見されました。ピロリ菌の感染が、様々な病気の原因になっているのですから、この菌を殺してしまう(除菌といいます)のが望ましいとされています。

慢性胃炎にも保険が適用されます

これまで保険によるピロリ菌の除菌は、胃潰瘍・十二指腸潰瘍・慢性胃炎が対象になっていました。(但し慢性胃炎の場合、胃カメラで証明する必要がありました)今年の4月からはこの慢性胃炎も保険適用になりました。

1994年WHOはピロリ菌を「確実な発ガン因子」と認定しています。

胃潰瘍・十二指腸潰瘍・胃炎などの患者さんを調査の結果、胃がんになった人の割合は、ピロリ菌に感染していない人は0%、している人は2・9%と多くなっています。

ピロリ菌への理解を深め、除菌という治療を医師に相談してください。